

令和5年度学校評価(自己評価及び学校関係者評価)

兵庫県立氷上西高等学校

学校教育目標

教育目標

校訓「自主 互譲 責任」を理念として、生徒一人一人の個性と能力の伸長を図り、人間としての誇りと豊かな心を育み、活力あるたくましい生徒を育成する。

スクール・ミッション

「自主 互譲 責任」の理念のもと、未来を生き抜くためのチャレンジ精神、主体的に学ぶ力、豊かなコミュニケーション能力を備え、地域に根ざし、明日の地域を担うことのできる人材を育成する。

スクール・ポリシー(三つの方針)

育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)

- ① まちづくり活動や地域の活動を通して、地域に貢献する生徒を育成する。
- ② 仲間と協力し、明るく元気でたくましく生き抜く生徒を育成する。
- ③ 社会とつながる学びを通して、自分に誇りを持つ生徒を育成する。
- ④ 互いの立場を理解し尊重し、助け合う温かい心を持つ生徒を育成する。
- ⑤ 規範意識を身につけ、自らの生き方を見つめ、自ら考え学ぶ生徒を育成する。

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

- ① 連携型中高一貫教育校として、連携中学校との活動の充実を図る。
- ② 地域社会と連携した課題解決的な学習活動を展開する。
- ③ 生徒の「やりたい」を大切にしたい実践的、体験的な探究活動を展開する。
- ④ 小規模校の特長を活かし、少人数授業や個別指導の充実を図る。
- ⑤ 分かる授業や「学び直し」を展開し、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

- ① 多様な学びに自ら積極的に取り組む生徒を募集する。
- ② 他者を認め、他者と共に前進する生徒を募集する。
- ③ 自分の夢と可能性を信じ、困難なことにも立ち向かう生徒を募集する。

重点目標

生徒が主体的に行動し挑戦することで一人一人の可能性を伸ばす教育活動の推進

- 1 生徒理解に基づく生活指導をとおして、基本的な生活習慣や社会人として求められるマナーを確立するとともに、互いの立場を理解し尊重し助け合う温かい心のかような人間関係づくりを図る。
- 2 小規模校の特性を生かした教育内容や指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図り、学ぶ意欲と学力を高めるとともに、進路実現のための取組や資格取得の機会を強化する。
- 3 学校行事や生徒会活動・部活動・ボランティア活動などとおして、体験的・実践的な学びの中で達成感・自己有用感を育み、母校と自分に誇りを持つ生徒を育成する。
- 4 地域との連携を深め、まちづくり活動や地域の活動に参加することで、自己実現とキャリア形成を促し、地域に貢献する高い志を持つ生徒を育成する。
- 5 連携型中高一貫教育校として、6年間をとおして生徒を育成する連携・交流のあり方を研究・実践し、連携中学校とともに、より一層の教育活動の充実を図る。
- 6 広報活動の積極的な展開により地域の理解を得るとともに、開かれた学校づくりを推進する。
- 7 生徒の能力・適性、興味・関心や多様な進路希望に基づき、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。

学校自己評価

[評価] 4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった

番	領域	評価の観点	評価項目	令和5年度実践目標	R5 平均	R5 評価	R4 平均	R4 評価
1		開かれた学校づくり	中学校との連携事業	本校文化祭、連携中学校文化祭、クリーンアップ大作戦、授業公開などの教育活動を通して中高の連携を推進し、生徒の活躍の様子や本校の特色・魅力を連携中学校に伝えていく。	3.4	A	3.1	B
2			中学校との生徒会交流	生徒会役員がリーダーとなり、中学生と一緒に、道の駅のタベ、八宿まつりなどの企画や運営を行う。また中学生に対して、探究フェス、オープンハイスクールなどの機会に学校紹介プレゼンを行う。	3.1	B	2.9	B
3			地域への貢献	本校生徒全員が1人1つ以上のボランティアに参加することを目標に、生まれ育った郷土を愛する心や、地域に貢献する姿勢を養う。	2.9	B	2.9	B
4			広報活動の充実	スクールニュースやHPを充実させ、保護者や地域の方々に本校の活動を理解してもらうとともに、学校行事の見学や公開授業・探究発表会へ参加してもらうよう促す。	3.6	A	3.4	A
5	学校運営	生徒指導	生活習慣の確立	あいさつや掃除の徹底、遅刻の防止、服装、頭髪等の校則違反を防止し、規律のある学校をめざす。	3.0	B	2.6	B
6			小規模校ならではのきめ細かい指導	生徒との面談やスキルアップシートなど日常的な観察をとおして生徒理解に努め、すべての教員が生徒の情報を共有することで、生徒理解に基づくきめ細かい指導を行う。	3.8	A	3.4	A
7			生徒指導体制の推進	校則違反、問題行動の防止のため、昇降口での登校指導と校内外の巡回指導を実施する。いじめの早期発見と未然防止のため、学校生活に関するアンケートと随時面談を実施する。生徒指導部と学年担任とで連携し、組織的に機敏な対応を行う。	3.5	A	3.3	B
8			学校行事の充実	体育大会、文化祭等の学校行事に生徒が主体的に取り組む場面をつくり、積極性や協調性を育てる。	3.7	A	3.6	A
9			部活動の活性化	部活動に積極的に取り組む生徒の数を増やし、明るく活気あふれる学校をめざす。	2.9	B	3.1	B
10	進路指導	進路指導体制の充実	個に応じた指導を行うため、個々の学力把握、ポートフォリオを実施し、必要な進路情報を提供する。	3.2	B	3.1	B	
11		進路意識の向上	体験的な進路ガイダンスを実施するとともに、地域社会と連携したボランティア体験等を通して、体験的に進路意識を醸成する。	3.4	A	3.3	B	
12		職業観・勤労観の育成	進路ガイダンス、インターンシップ、社会人による授業等を通して、望ましい職業観、勤労観を育成する。キャリアノートを軸にして系統的に進路指導を行う。総合的な探究の時間を軸にして探究的な進路指導を行う。	3.6	A	3.1	B	
13	教職員の資質向上	授業改善	教科の枠を越えた課題に対して、全教員で研究授業に取り組むことにより授業の見直し、改善を行うための機会とする。	2.9	B	3.0	B	
14		計画性を持った研修の実施	教育相談、特別支援教育、ICT活用、進路指導等の諸問題について校内研修を計画的に実施する。	3.4	A	3.4	A	

15	環境整備	落ち着いた学習環境の整備	清掃やごみの分別を確実にし、公共心と責任感を育てる。ロッカーを利用するなどして教室の環境整備を徹底する。	3.1	B	2.6	B	
16	教育課程	自ら学び考える力の育成	自主的に学ぶ授業場面	探究活動やグループワークなどの活動を工夫し、授業において積極性や協働性を形成し、主体的・対話的で深い学びを促進する。	3.4	A	3.1	B
17		基礎基本の定着	学習評価の工夫	学習活動の具体的な評価基準を提示し、生徒の学習意欲を高めるような学習活動の評価を工夫する。	3.0	B	3.1	B
18			学び直しの工夫	学校設定科目パワーアップを軸に、授業や補習等の内容の工夫を行い学び直しの機会を充実させる。	3.4	A	3.3	B
19		個に応じた学習指導の徹底	指導方法、指導内容の工夫	習熟度別授業や少人数指導によりきめ細やかな学習指導を実施し、指導方法や指導内容の工夫を行い、個に応じた授業づくりを行う。	3.6	A	3.4	A
20			各類型特色化の推進	生徒個々の進路と興味に応じた類型による教育を推進する。目的意識を持って各種資格試験等に意欲的に取り組ませる。	3.4	A	3.1	B
21		防災・安全教育	実践的な安全教育への取組	防災避難訓練を実施し、職員・生徒を対象に危機管理意識を高め、安全教育を推進する。職員と生徒を対象としたAED心肺蘇生講習会を実施する。	3.8	A	3.2	B
22	人権教育	確かな人権意識の育成	課題に応じた人権ホームルームを各学年で定期的に行う。人権研修会を実施し、互いに認め合い協力する等、一人一人の人権意識の高揚や認識の拡大を図る。	3.3	B	2.9	B	
23	課題教育	特別支援教育	チームで行う特別支援教育	校内研修会や合同研究会を行い個々の教育的ニーズに応じた取組を学び、関係機関から助言や情報提供を得たりすることで専門性向上を目指す。氷上特別支援学校やキャンパスカウンセラーとの連携により、多角的な視点で日々の学習指導や生活指導を行う。また、日頃より生徒の細かな変化を教職員で共有する。	3.9	A	3.4	A
24			連携による切れ目ない支援体制の構築	サポートファイル、中高連携シート、指導計画、支援計画を用いることで切れ目のない個別最適な指導・支援につなげる。また、卒業後も支援を受けられるよう本人、保護者、関係機関と連携した切れ目ない支援の方法を構築する。	3.7	A	3.5	A
25		社会人基礎力	心のサポートシステム研究開発	小中高連携、地域連携を推進し異年齢の考え方を理解し、自尊感情を高め、自己有用感を育て、社会人基礎力を育成する。	3.4	A	3.1	B

学校関係者評価

・現在の志願者数は、保護者や中学校アンケートの評価を反映したものだと思う。アンケートを見ても3年生の保護者全てが『西高に入学してよかった』と答えていることがすべてを物語っている。

・文化祭での模擬店の様子を見てみると、家庭で手伝いや料理をする子供が減っているのを感じる。学校からも、家での生活について問うてみてもよいのではないか。

・子供たちのあいさつはいつの年代でも課題だと思われる。ボランティアで来る生徒は気持ちよい挨拶してくれるが、インターンシップの生徒は苦手なようだった。一人一人の性格や性質に応じて、あいさつを促してもらいたい。

・文化祭アンケートを見て、「協力すること」「話し合うこと」に苦労したという回答に、生きる力を身に付けていると感じる。アンケートに答えた生徒の気づきが素晴らしい。

・卒業式に出席したが、一人一人が輝いている素晴らしい式だった。

・HPの充実が話題になっていたが、SNSの活用を考えてはどうか。生徒も更新できるようにして、リアルタイムに発信できる仕組みを作ればよいと思う。勝手にアップされたら困るという考えもあるが、管理者を通じてアップするようになればその心配はなくなる。

・生徒達と話し合っていると、お互いを認め合っている雰囲気があり、よいと思った。

・コロナ以降、徐々に活動が元に戻り良い活動ができていると思う。eスポーツ部の活動等、楽しみにしてる。

・西高への良いイメージというのは定着してきたように思う。その中で、不足しているのは、進学・就職実績の部分ではないかと思う。どれも、今すぐに向上できるものでもないと思うが、徐々に向上するように仕向けてほしい。

・家庭での学習時間がもっと多くなってほしい。

・保護者の学校への関心が少し低いように感じる(アンケート結果等から)。

・この一年間、当寺の仏殿改修工事の様子をビデオに収録する作業をお世話になった。ビデオがどのようなものになっているか楽しみにしている。

・配慮を要する生徒に対しても、何度となく対応していただき、無事に卒業、進級を迎えようとしている。多様な生徒が在籍する中、一人一人を大切にされた教育を進められていることに感謝します。

・生徒が自ら選択、決定し、様々な活動を行うことで、主体性が醸成され、今後の自立に向けての良き学びに繋がると感じている。

・就職に向けて、様々な支援を要する生徒に対して寄り添い、丁寧な進路指導をしてもらっている。

・高校生ともなると半分大人なので、生徒に任される場面が多いが、西高では少人数指導を活かし、担当教員が一人一人の状況を適切に把握されていることに感謝します。

・アンケート結果から、子供たちが学校生活を楽んでいる様子がよく分かった。自分の子供から直接話を聞いたことがなかったが、よい学校だったと思う。

・家庭学習に自分から進んでできるような工夫ができればと思う。HPをみんなに見てもらえるようにできればよいと思う。

・自分の子供たち3人が皆、西高に来てよかったと言っている。自分がやりたいことを先生が支えてくれるという点がよかったようだ。進路実現にもそれが反映されていた。この様子がもっと外に知ってもらえるとよいと思う。